



データサイエンティストからの挑戦状

達し、全14学部が学んでいきます。しかし、学部別の履修状況を見ると、数学や統計等に馴染みのある学部の履修率が高い一方、文系学部の学生が少ない傾向にありました。そこで、文系の学生も興味を惹くイベントを、3年ぶりに対面開催する同志社EVEにおいて企画することを決めました。

よくある学術的なイベントでは

大学

文理不問のデータサイエンスイベント

「集え！未来のデータサイエンティスト DDASH x NRIデータサイエンスラボ」の開催について

全学共通教養教育センター 事務室 係長 藤江悠五 ふじえゆうご

11月28日同志社EVEにて、野村総合研究所の協力のもと文理不問のデータサイエンスのイベントを開催しました。本学の数理・データサイエンス・AI教育の取組やイベント開催の経緯等についてご紹介いたします。

現在、同志社大学では大学をあげて数理・データサイエンス・AI教育に力を入れています。2022年度から文系・理系を問わず全ての学生が履修可能な「同志社データサイエンス・AI教育プログラム（DDASH）」を立ち上げました。DDASHの履修生は1年間で1500人に



パネルディスカッションの様様

特段コネクションがない中、不躰ながら協力を仰ぎ、コンセプト等を説明、全面協力を得てイベント開催にこぎつけました。

事前にNRIデータサイエンスラボ作成のYouTubeクイズ動画を配信し、イベント当日はクイズ動画の解説やNRIデータサイエンスラボ長の講演、本学の文化情報学部 宿久洋教授、阪田真己子教授とのパネルディスカッションを実施、当日の来場者数は58人、オンラインは217人と盛況の内に幕を閉じました。アンケート結果も好評でこれからデータサイエンスを学ぶ人に魅力や必要性が伝わるイベントとなりました。企画が不慣れで反省点もありますが、経験を糧として、今後も数理・データサイエンス・AI教育を促進する企画を進めていきたいと思えます。



イベントの動画はYouTubeに公開しています。

女子大学

同志社女子大学アニバーサリー・
ホームカミングデー2022を開催

広報部広報室広報課

2022年10月30日、今出川キャンパスにて「同志社女子大学アニバーサリー・ホームカミングデー2022」を開催しました。同志社女子大学同窓会《Vineの会》と共催で毎年開催しているホームカミングデーは、コロナ禍でも中止の判断をすることなく、感染症拡大の状況や社会の動向などを鑑みながら、実施可能な規模で対面開催を継続してきました。以下、2022年度の開催内容をご紹介します。

●創立150周年へ向けた「アニバーサリー」

本学が2026年10月24日に創立150周年を迎えることを卒業生の皆さまにも広く認知いただき、共に機運を高めていけるよう、「アニバーサリー・ホームカミングデー」創立150周年へのプロローグ」と題して、午前中には創立記念礼拝及び創立記念講演を実施しました。創立記念講演は、「同志社女子大学の源泉を訪ね〜私塾（Kyoto Home）教育が目指したもの〜」の演題で、小崎眞学長が

講演を行いました。その他、キャンパス内の各所に建物今昔の解説パネルを設置し、ジエームズ館内には記念写真撮影スポットを設け、新島襄・八重夫妻の等身大パネルや各種撮影グッズで自由に記念撮影を楽しんでいただきました。

●学科の学びを紹介する各種イベント

午後からは、キャンパス内各所で交流・体験イベントを実施しました。英語英文学科・日本語日本文学科・人間生活学科・食物栄養科学科が、学科の特色を紹介するワークショップや企画展示を行い、運営を担当した学科教員や在学生と卒業生が交流する機会となりました。また、楽真館ライニング・コモンズイベントエリアでは、英語英文学科生による英語プレゼンテーションと音楽学科生によるミニコンサートを開催し、学生たちの堂々たるパフォーマンスに、卒業生



英語英文学科生によるワークショップ
[Eibun's Global English Cafe]

からは惜しめない拍手が送られました。

●卒業生交流会

卒業生同士の新たな出会いと交流を目的とした卒業生交流会は、2つのコミュニティ（子育てママの会・シニアの会）を設けました。各コミュニティでは、教員や学生、《Vineの会》役員も含めた自由な語らいの場が持たれました。

●恩師訪問

毎年恒例の恩師訪問には、今回も多くの卒業生から面会の希望がありました。教員の研究室など各会場では、久しぶりに顔を合わせる卒業生と教員が和やかに懇談される様子が多く見られました。

●学生団体による出展イベント

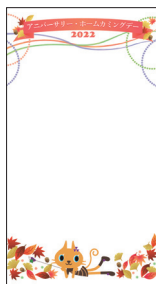
楽真館1階のラーニング・コモンズ内では2つの学生団体が出展し、ポスター等による活動紹介を行いました。同志社女子大学まちづくり委員会は、京田辺市の特産品を用いて開発したお茶やスイーツの試食、現代社会学会サステナブル研究会は、日常生活の中で感じていることを自由にメッセージボードに書き留める参加型イベントを行い、学生たちの熱意あふれる活動をPRする機会となりました。

これらの他、毎年好評のパイプオルガン見学会、瞑想室



亀屋良長様「同女オリジナル和菓子」の販売

見学には、今回も多くのご参加がありました。また、食堂・キャンパスストアの開店やキッチンカーの出店など、感染予防対策に留意しながら飲食の提供を行えたのは、3年ぶりとなります。学術研究支援課主催の女性アクティベーション講座や、キャリア支援課によるキャリアサロン（卒業生の異業種・異職種交流会）も同日開催され、来場した卒業生等約400名には、学生時代の思い出のつまったキャンパスで、ご家族やご学友とともに思い思いの時間を過ごしていただくことができました。



当日の参加者を対象に、2種類のオリジナルWebARフォトフレームを配信

中学校・
高等学校好奇心・探究心をDRIVEさせる
「同中学びプロジェクト」職員 古城 郷
こじょう あきむら

●「同中学びプロジェクト」は年間400企画を超えた成長著しい中学生の時期にこそ、多様かつ良質な体験を通して興味関心を広げ、将来のことを考える機会を提供したい。課外の特別な学習プログラムである「同中学びプロジェクト」スタート初年度（2013年度）は年間18企画ほどだったものが、オンライン活用も後押しして2021年度はついに年間400企画を超えた。

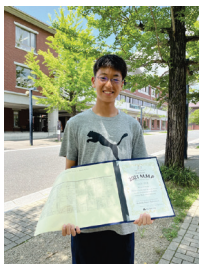
●日本一や世界一のヒト・モノ・コトとの出会いも多数

企画は、1つ1つすべて教職員が立案し実行している。担当する教科に関連のテーマを基礎に手作りしたり、企業人や研究者をゲストにコーディネートして共同で実施したりする。平日の放課後や土曜日、及び長期休暇などに実施され、生徒は誰でも自由にいくつでも参加することができる。もちろん学年を問うこともない。

「プログラミング講座」や「数学アプリの活用」「英字新聞の読解」など授業の延長で発展的な学びにつながる講座から、「LED工作」や「3Dプリンター体験」、「お金の学校」「広告講座」「沖縄・石垣島と共同での日食観察」などさまざま。また同志社大学はもちろん、学外の大学、企業の研究室単位でも協力を求めて、京大、阪大、理化学研究所、島津製作所

などへ訪問したり、一線の研究者による講演を聴いたり、地域のフィールドワークや国際交流を行うなど、生徒の幅広い興味関心に対応するため、領域の広がり止まるところを知らない。

●「学ぶ楽しさのおかわりモード」で参加リピーターする生徒完全な自主参加制での実施がゆえに、企画により参加する生徒人数にバラつきがあるものの、中には1人で年間200企画以上参加する生徒もいる。そこまでは無くとも、多彩な講座に参加を重ねるヘビーなリピーターは、年々増えてきている。年間での表彰制度も生まれた。リピーターにとつての参加動機（モチベーション）は何か。参加後の「気づきノート」から窺い知ることができる。



年間MMPを受賞した生徒

『普段考えないことを考えることができたし、自分が持っている能力を上手く使って、世界を良いようにしなければいけないと思いました。』（中1）『ソーシャルイノベーションってなんだ！？』今里滋先生より

『未来の車がどうなっているのかについて、会社の方の意見に共感したり、自分の意見も言うことができたのでよかったです。これから未来のためにどうしていけば良いのか考えてみたいと思います。』（中2）『THINK! Mobility 2030 with 自動車業界・超有名企業エンジニアより』

『私は環境問題に対して、自分一人が行動しても、あまり

意味がないのではと思っていましたが、間違いに気づきました。どんな大きな活動も、一人だったり少人数から始まっていると思うから、自信を持って行動して、周りの人にも伝えたいと思いました。』(中2:「気候変動と私たちの選択」・露木志奈さん)より)

『自分のプレゼンを本物の投資家さんや、アップル社の現役エンジニアの方から褒めてもらえて、とっても嬉しかったです!また質問したり、貴重なお話を直接聞けてよかったです。自分もアップルやインテルなどで働きたいって思いました。』(中2:「bizworld」会社経営シミュレーション講座)より)

●企画側も参加者も、全員の好奇心がDRIVEする

まず、自らが講師として自身の研究や技を提供する教職員はもちろん、学校外からのゲストも普段にない熱量を持って登場する。特に「学校の外にあるホンモノの仕事や研究、プロフェッショナルとの出会い」は、生徒にとって、自分自身が社会とつながっている感覚、そして「評価」も実社会のなかこそ存在するということへの気づきにつながっている。

また、普段から自身の分野で真剣に学び・働いている大人が、「中学生のためなら!」「自分の研究・仕事を知ってもらうことは嬉しい!」「中学生のフレッシュな反応・意見・アイデアが楽しみ!」という気持ちで登場するからこそ、相乗された共感・達成感が生まれる空間になっている。

そして、大人側が日常の研究や仕事での「困り」「課題」「弱さ」をさらけだし、子どもたちに隠さずに向き合いながら、

フラットな関係で対話、ワークショップ、実験、プロダクトを共創したりする。そこで中学生が発する意見やアイデアに「おもしろい!」「すごい!」「いいね!」と「評価」を渡してくれる。ときには世界一・日本一のプロフェッショナルから直接褒められることもある。「自分たちが考えたことも社会のなかできっと通用する!」「私も社会の一員としてアクションすることができる!」「私が助けた!」といった「自信(自己肯定感・有存在感)」を中学生が得ていると考えられる。

これらは総合的に発生している「学びプロジェクト」の魅力と言える。それにより「学ぶ楽しさ」が身体にしみ込み、もっと参加したい!という好循環を発生させているのだと考える。その「学ぶ楽しさ」が普段の教科学習への意欲や、日々の諸活動へのモチベーションに還元されていくことは容易に想像できる。まさに「同中学びプロジェクト」が、生徒一人ひとりの自発的な知的活動の根源となる「好奇心」に対して働きかけて、「学び」へのやる気を起こし、駆り立てているといえる。まだまだ発展させていきたい。



Webでも紹介しています。



2022年10月28日～10月31日まで第22回全国障害者スポーツ大会（以下障スポ大会という）・いちご一會とちぎ大会が開催され大阪府代表選手として出場しました。2019年第19回障スポ大会・いきいき茨城ゆめ大会から卓球競技で初の精神障害部門が設定されて、出場する予定でしたが、運悪く台風の為に中止となりました。それから2020年、2021年の障スポ大会は新型コロナウイルス感染症拡大の為、中止となりました。今年、大阪府予選で優勝して、障スポ大会の切符を手にし、銅メダルを獲得しました。

19歳の時に交通事故に遭い、その後就職しましたが、27歳の時に脳の損傷が認められ、軽度外傷性脳損傷（MTBI）と診断を受けました。私の場合、症状として一番目立つのが疲労感で、考えたり行動する事に長時間持続できない事です。記憶障害や物事の計画が立てられない遂行機能障害等もあります。脳損傷の症状は、

香里中学校
・高等学校

三年越しにつかんだぞ 全国障害者
スポーツ大会に参加して（パラ栃木国体）

アルバイト職員 野田拓次郎
のだたくじろう



以前していた事は出来るのに、これから新しいことにチャレンジする事が困難です。

※精神障害は、一般の方から「どこが悪いの？」と、理解されにくいのが難点です。

私は「精神障害の部門のパラスポーツ（卓球）」で障スポ大会の舞台に立てた事と自分が活躍できる場所を日本パラスポーツ協会、文部科学省、大阪府障害者スポーツ協会に作って頂いた事にとても感謝しています。また全国大会に参加して、精神障害の卓球の仲間に出会えた事が最大の喜びです。試合内容は、僅差で負けてしまい、自分の詰めの甘さがあると感じ、とても悔しい思いをしました。次に向けて苦しい部分の練習や、目標が出来、頑張りたいと思います。

日本だけでなく、世界中に精神障害を持たれる人が多くいると思うのですが、いずれ精神障害でのパラ卓球の世界大会またパラリンピックを開催して頂ければ嬉しいのです。

今の自分がここまでこれたのも、家族をはじめ皆様のご理解があつての事だと気づきました。現在、同志社香里中学校・高等学校の事務室で働いています。教職員の皆様にご配慮して頂き大変感謝しています。これからも精神障害のパラスポーツを広げていけるよう頑張りたいと思います。



女子中学校・高等学校

2022年度学園祭について

生徒部 主任 平岡隆一
ひらおか しょういち

今年度の学園祭は、コロナ禍以前の日程で開催することになりました。

- 9月26日(月) 体育祭準備
- 9月27日(火) 体育祭
- 9月28日(水) 文化祭準備日
- 9月29日(木) 文化祭(合唱コンクール)
- 9月30日(金) 文化祭(クラブや有志による催物・展示)
- 10月1日(土) 文化祭(クラブや有志による催物・展示)

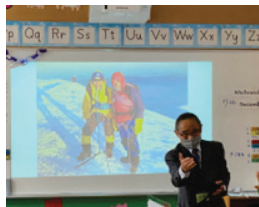
合唱コンクールと10月1日の文化祭は保護者を招いての実施ということになりました。

本校の学園祭は、体育祭企画委員(200名)と文化祭企画委員(150名)を有志で集め、生徒会が中心となって準備を進めていきます。3年ぶりの従来通りの開催ということで、高校生徒会や企画委員全員がコロナ

禍以前の日程での学園祭を高校で経験しておらず、準備は大変なものとなりました。卒業生が残してくれた歴代の引継ぎノートを頼りに試行錯誤しながら何とか準備を進めました。

今年度の大きな課題となったのが、合唱コンクールの実施でした。クラス一丸となって取り組む合唱コンクールを何とか実施したいというのが生徒会の強い希望で、実施するためにはどうすればよいか検討を重ねました。検討を重ねた結果、今年度は実施にあたって、以前と変更した点がありました。一つ目は、コンクール形式ではなく発表会形式で、クラスの順位をつけないこと。二つ目は、練習を9月から週3日、放課後の約45分のみで練習としたことでした。順位をつけず、限られた中で練習を行い、今年度は競うのではなくみんなで歌えるということに感謝し、お互いの歌声を聴くということを大切にしました。当日はマスクを着用し、指揮者には特設ステージを用意し、歌い手との距離を十分に取るなど、できる感染対策を取り実施をしました。

3年ぶりにコロナ禍以前の日程で行えた文化祭は、生き生きとした生徒たちの姿が溢れ、充実した時間を過ごすことができていました。次年度以降、生徒たちがより輝ける行事になることを願っています。

エベレストの質問に答える
田島繁先生

元同志社中学校教諭で、登山家、写真家、YouTuberでもある田島繁先生を迎え、「世界十二名峰登山」と「新島の足跡を辿る」京都・安中ウオークについてお話いただきました。どちらも想像をはるかに超える体験で、旅によってどれほど自分の世界が広がるのかについて知ることができました。

また、本校保護者のレイチエル・ソーンさんを迎え、エクアドルを旅されたお話を伺いました。「世界は広いという実感を持つように

●ゲストティーチャーと学ぼう

人生はよく旅に例えられます。旅の途中で私達はだれと出会い、どんな経験をするでしょうか。子ども達は、誕生した日から、幼稚園の思い出、発表会や家族旅行、国際学院への入学などを「自分史」としてスクラップブックにまとめました。

●自分史を作ろう

国際学院初等部では、探究学習を中心に様々な教科を学んでいます。1年生は、11月から1月にかけての6週間、「旅」をテーマに探究を進めました。

国際学院

人生は旅である〜Life is a Journey〜
同志社国際学院初等部 1年生の取り組み

教諭

藤井元嗣
ふじいもとく

なった。」という言葉に、子ども達は真剣な眼差しで聞き入っていました。

同志社大学の学生さん達にも協力いただきました。一つは、グローバル・コミュニケーション学部唐顔芸准教授の Seminar Project より、オリジナル絵本の読み聞かせです。もう一つは、森田喜基准教授のプロジェクト科目「子どもたちのためのキリスト降誕人形劇」による、クリスマス人形劇です。子ども達は、同志社大学で学ぶ先輩の姿を見て、自分の将来についても思いを巡らせていました。

●新島襄の旅、キリストの旅

聖書と新島襄の学習にも熱心に取り組んでいます。探究の時間にも、新島が初めて船に乗った玉島航海や、アメリカへの旅のように、新島の生涯を「旅」という視点から学びました。

人生を旅として考えたのは、イエス・キリストもそうだと思います。イエス・キリストは病に苦しんでいる人、社会の中で弱くされている人に出会うために、旅を続けられました。子どもたちにも、聖書の言葉に押し出され、そのような人々と共に生きることができるよう成長してくれることを期待しています。



クリスマスの人形劇

保護者もLearning Community
の一員です

小学校

平和の鐘を鳴らそう International Day of Peace (国際平和デー) 2021

教諭

なかがわよしゆき
中川好幸

同志社小学校では、2021年度より、京都ユネスコ協会と連携してSDGs協働学習に取り組んできました。その一環として、このたび、国連が定めた平和記念日「国際平和デー」に、全校児童・教職員がみなで世界の平和を祈る機会を設けることになりました。こうした経緯から「国際平和デー」と、同志社小学校の「平和の鐘を鳴らそう」というイベントを組み合わせ、京都ユネスコ協会様との共催という形で「平和の鐘を鳴らそう International Day of Peace (国際平和デー)」の開催に至りました。

開催当日まで、児童が礼拝や授業などを通じて、平和の学びに取り組み、当日の朝の礼拝では、「昭和16年夏の敗戦」「戦時下のノーサイド」「つるのしかえし」の三冊の書物から、誰も望まないのにある方向に物事が進み、巻き込まれてしまうということがある。

・スポーツなど、あたりまえのことができなくなるのが戦争である。

・相手をやっつけることでは、争いは終わらない。私たちの最大の敵は私たちの心である。

ということを学びました。

それとともに1、4年生は、英語の学習で平和に関する工作を通じ、どんなことが自分にとって平和なのかを考える、工作した作品を学校中に展示しました。また、5・6年生は宗教科と英語科の授業で、「私の考える平和とは？」というフリップを、日本語と英語で作成しました。授業で全員が発表しました。

イベントの当日の昼休み、6年生による司会進行のもと、希望者が校舎中央のチャペルコートに集まり、国連の旗の前でフリップを掲げ、平和への思いを伝えました。その後、その祈りをもって、各自が鐘を鳴らしました。

児童各自がこのイベントをきっかけに、自分のまわりから少しずつ視野を広げ、世界のことに関心をもちつつ、日常の小さなことから、それぞれが小さな平和を作り出していくことを心から願っています。



また、今回のイベント開催においては、日本国際連合協会京都本部ならびに京都ユネスコ協会の協力をいただき、2名のご担当者をゲストにお迎えし、児童の平和への思いを共有していただけたことも、貴重な機会となりました。